

平成30年第1回

岩内町子ども議会 会議録



平成30年7月30日

目 次

岩内町子ども議会の目的	1
子ども議会議員	3
説明員	4
各執行機関の長から委任または囑託を受けた説明員	4
議会参与事務局職員	4
議事日程	5
出席者の紹介	6
開会宣言	6
会議録署名議員の指名	6
会期の決定	6
議長あいさつ	7
町長あいさつ	7
代表質問	7
菊地紗那 議員（西小学校6年）	8
【人口減少と少子高齢化について】	
【医療施設について】	
【大きな店や映画館を作ることについて】	
【海洋深層水を使った特産品について】	
【たら丸を生かした岩内のグッズ販売について】	
阿部誠司 議員（東小学校6年）	11
【アテナ公園について】	
【東山の歩道橋について】	

田中夏威斗 議員（第一中学校3年）	12
【通学路の外灯設置と歩道の整備について】	
【岩内町のポイ捨て対策、それに関わってのごみ箱設置の希望について】	
【過去に起こった災害から学んだ災害対策について】	
【岩内町での再生可能エネルギーの取り組みについて】	
川筋緋花 議員（第二中学校3年）	16
【岩内町の人口問題について】	
【岩内町のまちづくりについて】	
【岩内町の学校について】	
閉会宣言	18
会議録署名	18
【付録】第1回子ども議会記念写真	19～21

岩内町子ども議会の目的

- 開かれた議会を目指し、議会活性化の一環として、町内各小中学校の児童・生徒に議会を経験していただく。
- 児童・生徒の立場から、町の仕事について質問をしていただき、町と議会が一緒になり、その質問をよりよい岩内町をつくっていくための意見やアドバイスとして活かす。



平成30年第1回岩内町子ども議会

1. 子ども議会議員

議席番号	氏 名	学 校 名	学年	備 考
1	柄 澤 玲 偉	西 小 学 校	6年	
2	吉 住 花 梨	西 小 学 校	6年	
3	西 川 大 貴	西 小 学 校	6年	
4	菊 地 紗 那	西 小 学 校	6年	代表質問
5	阿 部 誠 司	東 小 学 校	6年	代表質問
6	来 嶋 咲 友	東 小 学 校	6年	
7	大 橋 里 奈	東 小 学 校	5年	
8	野 田 実 花	東 小 学 校	5年	
9	近 藤 麗 来	第二中学校	3年	
10	林 洵	第二中学校	3年	
11	眞 嶋 伶	第二中学校	3年	
12	川 筋 緋 花	第二中学校	3年	代表質問
13	田 中 夏 威 斗	第一中学校	3年	代表質問
14	安 田 捷 人	第一中学校	3年	
15	阿 部 恵 大	第一中学校	3年	
16	金 谷 彪 尊	第一中学校	3年	

1. 説明員

(質問に答える人)

町	長	上岡雄司
教育委員会	教育長	吉田勲

1. 各執行機関の長から委任または囑託を受けた説明員

(質問に答える人を補助する人)

副町	長	猪口仁
総務部	長	三浦宣彦
民生部	長	手塚良人
企画経済部長 (企画調整・観光推進担当)		木村清彦
企画経済部長 (産業振興担当)		佐藤博樹
建設水道部	長	田中修
教育委員会	教育部長	丸屋健市

1. 議会参与事務局職員

(議会の活動を補助する人)

事務局	長	老田雅貴
事務局	次長	阿部雄二
書	記	綿谷麻紀子

平成30年第1回岩内町子ども議会

議 事 日 程

(第1号)

【今日の会議で行うこと】

平成30年7月30日

午前10時30分開議

日 程	議 件 番 号	議 件 名
1		会期の決定について
2		代表質問（各小中学校代表者4名）

平成30年第1回岩内町子ども議会会議録

平成30年7月30日（1日目）

事務局長(老田) 議会開会前ですが、本日の子ども議会に出席をいただきました子ども議員並びに町の出席者をご紹介します。

はじめに、子ども議員を議席番号順にご紹介いたします。

- 1番、西小学校6年、柄澤玲偉議員です。
 - 2番、西小学校6年、吉住花梨議員です。
 - 3番、西小学校6年、西川大貴議員です。
 - 4番、西小学校6年、菊地紗那議員です。
 - 5番、東小学校6年、阿部誠司議員です。
 - 6番、東小学校6年、来嶋咲友議員です。
 - 7番、東小学校5年、大橋里奈議員です。
 - 8番、東小学校5年、野田実花議員です。
 - 9番、第二中学校3年、近藤麗来議員です。
 - 10番、第二中学校3年、林洵議員です。
 - 11番、第二中学校3年、眞嶋伶議員です。
 - 12番、第二中学校3年、川筋緋花議員です。
 - 13番、第一中学校3年、田中夏威夷議員です。
 - 14番、第一中学校3年、安田捷人議員です。
 - 15番、第一中学校3年、阿部恵大議員です。
 - 16番、第一中学校3年、金谷彪尊議員です。
- 以上、16名でございます。

次に、町の出席者をご紹介します。

上岡町長です。

猪口副町長です。

吉田教育長です。

三浦総務部長です。

手塚民生部長です。

木村企画経済部長、企画調整・観光推進担当です。

佐藤企画経済部長、産業振興担当です。

田中建設水道部長です。

丸屋教育部長です。

以上が子ども議員並びに町の出席者ですが、他に、各小中学校長、町議会議員及び教育委員会委員にもご出席をいただいております。

それでは、早速、子ども議会を進めてまいりたいと思います。

本日の子ども議会の進行は、岩内町議会議長が務めますので、永井議長、よろしく願いいたします。

開会 午前10時37分

議長(永井) 子ども議員のみなさん、こんにちは。

岩内町議会議長の永井でございます。

本日は、よろしく願いをいたします。

ただいまの出席議員は、16名であります。

定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

これより、平成30年第1回岩内町子ども議会を開会いたします。

ただちに、本日の会議を開きます。

本日の会議録署名議員に、第一中学校、金谷彪尊議員、第二中学校、近藤麗来議員を指名いたします。

本定例会に出席を求めた説明員、並びに議事日程は、お手元に配布のとおりであります。

日程1、会期の決定についてを議題といたします。

日程1 会期の決定について

議長(永井) おはかりいたします。

本子ども議会の会期は、本日1日といたしたいと思います。

これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長(永井) ご異議なしと認めます。

よって、本子ども議会の会期は、本日1日と決定いたしました。

子ども議会に開催にあたり、岩内町議会を代表し、一言、ご挨拶を申し上げます。

本日は、岩内町議会が初めて開催する子ども議会にお集まりをいただき誠にありがとうございます。

町議会議員の活動は、本日、この子ども議会を開催する議場はもとより、さまざまな場面での活動がありますが、岩内町議会では、開かれた議会を目指し、議会活性化協議会をつくり、さまざまなことを話し合っております。

本日は、その一環として、町内各小中学校の児童・生徒にお集まりをいただき、議会を経験いただくとともに、児童・生徒の立場から、町の仕事について、質問をいただき、町と議会が一緒になり、よりよい岩内町をつくっていくための意見やアドバイスとして活かさせていただきたいと思っております。

結びに、本子ども議会を開催するにあたり、校長会・教頭会をはじめ、関係各位のご協力に感謝を申し上げ、また、傍聴いただきました保護者のみな様には、今後とも、議会の活動に一層のご理解を賜りますようお願いをし、挨拶いたします。

本日は、どうぞ、よろしくお願いいたします。

次に、町長より挨拶の申し出がありますので、これを許します。

町長。

町長(上岡) (登壇) みなさん、こんにちは。

岩内町長の上岡雄司でございます。

本日は、子ども議会の開催にあたり、各小中学校の代表者16名のみな様に、ご参加いただきましたことを、たいへんうれしく思っております。

また、みなさんには、この日のために、いろいろなご準備やご努力をしていただきましたことを、

心から感謝を申し上げます。

改めて、この場からみなさんの凛々しい顔を拝見いたしますと、これから始まる子ども議会に対する強い熱意や意欲が伝わってきて、たいへん頼もしく感じております。

いま、みなさんがおられる、この議場は、町民のみなさんが住んでよかったと思える町になるよう、さまざまな問題や課題について議論をする、とても大事な場所であります。

そして、みなさんは、これからのこの議場において、子ども議会議員として演台に立ち、岩内町を、もっと住みよい町にするため一生懸命に考えたことを、ご質問していただくこととなります。

学校の代表として意見を述べることは、たいへん緊張するかもしれませんが、未来の岩内町を担い、そして支えていかれるみなさんが、町議会の運営を直に体験することは、たいへん有意義で貴重な体験になると思っておりますので、自信を持って質問をしていただければと思っております。

私も教育長も、みなさんのご質問に精一杯、お答えをさせていただき、みなさんからいただいたご意見やご提案を、これからの町づくりに活かしてまいりたいと考えております。

結びになりますが、本日の子ども議会開催にあたり、ご協力をいただきました、各小中学校の校長先生や諸先生方をはじめ、保護者のみな様、並びに関係各位に心から感謝とお礼を申し上げます。

今後とも、町政に対しまして、一層のご支援とご協力をお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞ、よろしくお願いいたします。

議長(永井) 日程2、代表質問を行います。

日程2 代表質問(各小中学校代表者4名)

議長(永井) 順序表により、順次質問を許します。

菊地紗那議員。

1 菊地 紗那

- 1 人口減少と少子高齢化について
- 2 医療施設について
- 3 大きな店や映画館を作ることについて
- 4 海洋深層水を使った特産品について
- 5 たら丸を生かした岩内のグッズ販売について



菊地議員（登壇）西小学校6年、菊地紗那が質問します。

私たちは総合的な学習で、岩内の未来について考えてきました。その中で、出てきた問題点やアイデアをお伝えしようと思っております。よろしく願いいたします。

まず、1つめの質問ですが、岩内町はピーク時

の1970年の25,000人から現在12,000人と人口が約半分に減っていますが、人口減少と少子高齢化について、どのようにお考えですか。

次に、2つめの質問です。岩内町には、がん治療ができる場所がなかったり、眼科や皮膚科があまりないので、そういった医療施設を作ってほしいです。そのことについて、どうお考えですか。

次に、3つめの質問です。岩内町にはイオンのような大きな店がありません。大きな店や映画館を作ることについては、どうお考えですか。

次に、4つめの質問です。私たちは、岩内の特産品を生かした、海洋深層水を使った地ビールやスムージーなどを作って広めればよいという考えがありますが、それについてはどう思いますか。

最後に、5つめの質問です。たら丸を生かした岩内のグッズ販売をするとよいと思うのですが、どうお考えですか。

以上で質問を終わります。

議長(永井) 町長。

町長(上岡)（登壇）西小学校、菊地議員のご質問にお答えいたします。

1つめは、人口減少と少子高齢化についてのご質問です。

人口減少と少子高齢化は、岩内町だけではなく、国全体の重要な問題となっています。

この人口減少や少子高齢化が進むと、働く人がいないなど、町の活気がなくなり、町全体の元気が低下することになります。

このため、国は、すごいスピードで少子高齢化が進む中で、特に地方の人口減少に歯止めをかけることを目的にした法律を作りました。

岩内町でも、この法律に基づき町の人口の現状を調べたり、人口に関する町民のみなさんの考えを調べながら、岩内町総合戦略という

計画を作りました。

1つ、安心して働くところの確保、2つ、観光する人が来やすい町・若者や他の町から引っ越しで来る人の住みやすい町、3つ、子どもを育てやすい環境を作ること、4つ、町に住んでいる人が安全で安心してらせる町という4つの目標を立てて、取り組みをしています。

岩内町は、山や海などの自然が豊かな地域の特色や美味しい食べ物や歴史的に貴重なお寺など他の町に負けない良いものがたくさんありますので、こうした町にある資源を生かした計画を確実に実施することで、岩内町の魅力をたくさんの人に知ってもらうことがたいへん重要であり、人口減少を止めることにも効果があると考えております。

2つめは、医療施設についてのご質問です。

はじめに、町内の医療機関と診療科目の状況としては、岩宇の中核病院である岩内協会病院では、総合診療科をはじめ消化器内科、外科、神経精神科など8診療科を開設しており、また町内及び近隣の共和町梨野舞納には、内科や小児科、耳鼻科、整形外科、眼科や皮膚科を診療科目とする医療機関が10施設あります。

全国的に見ますと、医師や看護師などの医療従事者は年々増加傾向にありますが、人口減少が著しい過疎地域においては医療従事者の確保が難しく、岩内町においても例外ではなく、岩内協会病院の常勤医師も現在は5名で、昨年同時期と比べ2名の減となっており、常勤の医師の確保が重要な課題となっております。

また、がん治療に関しては主に小樽や札幌の病院で、手術や放射線・薬などを効果的に組み合わせた集中的治療が実施されており、その治療後は、住み慣れた地域に戻り、町内の医療機関で継続的な医療を受けることができるよう、病院間の役割分担を図り、お互いの医療連携を行っております。

いずれにしましても、町民の健康保持、さらには地域の安全・安心のため、現在の医療体制や救

急患者の受け入れ体制を確保することを優先的に取り組んでおります。

また、重い病気とにならないよう定期的な健康診査の受診を勧めたり、生活習慣の改善への支援をするほか、感染症の拡大を防ぐよう、各種予防接種の接種率の向上や病気に対する予防の啓発にも力を入れてまいりますので、どうかみな様も、常日頃から自分の健康状態に関心を持ち、病気やケガをしないよう、気をつけて生活していただきたいと思います。

3つめは、大きな店や映画館を作ることについてのご質問です。

岩内町に、もし大きなショッピングモールや映画館などがあれば、町内の人だけでなく、町外からもたくさんの方が訪れるでしょうし、きっと家族や友達との買い物やおでかけも楽しくなると思います。

いまは、そうした施設のない岩内町ですが、みなさんが生まれるずっと前には二葉座、萬生座、また数年前まではニューシネマなどの劇場や映画館があり、町の人たちが芝居や映画などを楽しむ華やかな時代もありました。

その後、魚が捕れず漁業が厳しくなるにつれ、町の人口も減り、残念ながら、いまでは施設もなくなってしまいました。町に大きな店を作るためには、例えばこの冬オープンしたイワナイリゾートに外国人がたくさん訪れたように、新しい人の流れをつくっていくことが大切であると考えております。

今後、岩内の近くには高速道路や新幹線が伸びてきますので、人や車がとても来やすくなり、これによって町に大きな店などの建つ可能性も高くなります。

一方で、もし岩内町に大きな店や映画館を作りたいという企業があれば、その企業がどのような企業か、町の人や商店街の方々などの意見はどうか、そこで働く人達をどのように集めるのか、大

きな店を建てる場所はあるのかなど、しっかりと考えていかなければなりません。

いずれにいたしましても、この町にこういうものがあればいいなとみんなで考えることは、町づくりを進めるうえでとても大切なことだと思います。

これからも、みなさんが住んでいて楽しくなるようなまちになるよう、みなさんの思いを受け止め、しっかりと取り組んでいきたいと思えます。

4つめは、海洋深層水を使った特産品についてのご質問です。

町では、平成17年2月から海洋深層水の利用や販売をはじめ、今年で14年目を迎えました。

これまで、大浜地区にある地場産業サポートセンターでは、海洋深層水を使っていただいている企業の、さまざまな商品開発のお手伝いをしながら、海洋深層水の利用を広めてきました。

冷たくて、栄養豊富で、とてもきれいな海洋深層水は、町内の水産加工会社などで特産品の数の子やニシン、ウニなどの水産加工用品に使用されているほか、豆腐、かまぼこ、パンなどの食品や、石けん、肌水などの化粧品などにも広く使われています。

ご質問いただいた海洋深層水を使った地ビールについては、1871年にここ岩内でビールの原料であるホップが発見されたことにちなんで、すでに岩内地ビールとして販売されているほか、岩内岳の天然水や塩サイダーなどの飲料水も商品化されています。

しかし、海洋深層水スムージーのほうは、まだ取り組まれていませんが、海洋深層水を使ってトマトやメロンなどを栽培している農家さんもいますので、海洋深層水フルーツを使ったスムージーというものを将来的には十分考えられると思えます。

こうした海洋深層水の利用については、以前、第二中学校のみなさんからいただいたアイデアの

中から塩キャラメルソフト、塩おにぎりを深層水まつりで提供したり、実際にお店を出していただいたことがあります。

町では、これからも地場産業サポートセンターを中心に、海洋深層水を使った特産品を増やしたり広めたりしていきたいと考えていますので、今後もみなさんからのアイデアがありましたら、地場産業サポートセンターの職員がお話を伺いますので、ぜひ、声をかけていただきたいと思います。

5つめは、たら丸を生かした岩内のグッズ販売についてのご質問です。

岩内町のマスコットキャラクターたら丸は、当時、洋服店を営んでいた今井郁夫さんの考案で、双子の妹、ベに子ちゃんと弟のピン助くんとともに、いまから33年前に誕生しました。

平成18年のTVチャンピオン・ゆるキャラ日本一決定戦と平成20年のゆるキャラ王選手権で見事2大会連続の全国準優勝に輝いて以来、人気キャラクターとしてたくさんの方に愛され、現在も活躍中です。

このたら丸のグッズ販売については、岩内観光協会や、いわない楽座のみなさんのご協力で、Tシャツ、うちわ、ボールペン、メモ帳、ストラップ、タオル、ぬいぐるみ、小判などの雑貨類のほか、たら丸焼き、たら丸せんべい、たら丸キャンディなど、さまざまなグッズ・土産品が商品化され、道の駅や、いわない楽座で販売されており、訪れる観光客などに喜んでいただいております。

また、キャラクターグッズのほかにも、たら丸の名前やイラストを使ったものが、町の至る所にあります。

例えば、たら丸の名前のついたものでは、たら丸市場、福祉バスたら丸号、運動公園にあるたら丸遊具など、イラストを使ったものでは、商店街のシャッターをはじめ、マンホールのふた、交通安全の旗、ごみ収集車の車体プリントなど、ほか

にもいろいろなものに使われていると思いますので、町の中を探してみると楽しいと思います。

町では、このように、グッズ販売をはじめ、さまざまなものに利用され、親しまれているたら丸を、これからも岩内町のPRのために使っていきたいと考えておりますので、ほかにもたら丸を使った良いアイデアがありましたら、ぜひ、教えていただきたいと思ひますし、これまで以上にたら丸をかわいがっていただきたいと思ひます。

以上。

議長(永井) これにて菊地紗那議員の質問を終わります。

次に、阿部誠司議員。

2 阿部 誠司

- 1 アテナ公園について
- 2 東山の歩道橋について



阿部(誠) 議員 (登壇) 岩内東小学校6年の阿部誠司です。

アテナ公園と歩道橋について質問があります。

1つめは、学校でアテナ公園に遠足に行くことがあります。トイレはありますが、公園らしいものが何もありません。潮風で錆びるかもしれませんが、アテナ像だけでは寂しいです。何かほかのものをつくる予定はありますか。

2つめは、東山の歩道橋についてです。ところどころ錆びていて、ごみも多かったり雑草が生えていたりします。東小学校の児童の中でも、怖いから歩道橋を使いたくないという話をよく聞きます。いろいろな面で危ないと思うのですが、どうお考えですか。

以上で質問を終わります。

議長(永井) 町長。

町長(上岡) (登壇) 東小学校、阿部議員のご質問にお答えいたします。

1つめは、アテナ公園についてのご質問です。

アテナ公園といわれているのは通称で、運動公園や町の中にある公園ではなく、主にフェリーで訪れる観光客などのいこいの場として整備した新港地区緑地という施設です。

このフェリーが平成11年に運航をやめてからは、緑地の利用が少なくなり、現在では、学校行事でのレクレーションの場や散歩コースとして利用されていますが、最初に整備した目的や、訪れている人数、利用状況などを考えますと、他の公園にあるような遊具等の新たな施設を作ることは、いまは考えてはおりません。

しかしながら、新港地区緑地は、今後、岩内港における工業団地への企業誘致、深層水利用に関連して港湾で働く人の増加や、クルージング、ダイビング、サーフィン、フィッシングといったマリンスポーツや海水浴などでにぎわうなど、将来、

可能性が広がることも考えられますので、その場合には、新たな施設の整備について考えていきたいと思えます。

2つめは、東山の歩道橋についてのご質問です。

国道276号にある歩道橋は、周辺に住んでいる人の利用のほかに、小学校・中学校に通う児童生徒のみなさんや病院を利用する人、コンビニを利用する人などが安全に国道を横断することを目的とした岩内町に1箇所しかないものであります。

こうした道路に関係する施設は、その道路を管理する人が決まっています、その人が行うこととなります。

岩内町には、主なものとして国道、道道、町道、私道という種類の道路がありますが、歩道橋のある道路は、路線の名前を国道276号といい、国が管理する道路です。

具体的には、国土交通省北海道開発局小樽開発建設部岩内道路事務所というところが管理しています。

このほか、道道は北海道が管理する道路で、北海道後志総合振興局小樽建設管理部共和出張所というところが管理し、町道は岩内町が管理します。

こうした中、歩道橋は国の道路を管理する人が定期的なパトロールで、歩道橋がいたんでいないか、あかりが切れていないかなどの状態を確認していますが、実際に歩道橋を使っている人からの情報は安全・安心な施設を保つため、たいへん貴重でありますので、今後も気づいたことがありましたら、遠慮なくお寄せいただきたいと思います。

ご質問いただいた歩道橋については、岩内町からも国に対して、なるべく早く対応してもらおうようお願いしたいと思います。

以上。

議長(永井) これにて阿部誠司議員の質問を終わります。

次に、田中夏威斗議員。

3 田中 夏威斗

- 1 通学路の外灯設置と歩道の整備について
- 2 岩内町のポイ捨て対策、それに関わってのごみ箱設置の希望について
- 3 過去に起こった災害から学んだ災害対策について
- 4 岩内町での再生可能エネルギーの取り組みについて



田中議員 (登壇) 第一中学校3年、田中夏威斗が質問をします。

はじめに、通学路の外灯設置と歩道の整備について質問をします。

冬になると、下校時に東山のセブンイレブンから阿弥陀寺におりる坂や運動公園付近などがすごく暗く、周りが見えにくくなっています。そのため、もし不審者がうしろからついてきても、

近くにくるまで気づかないということがあるかもしれないと思います。また、最近、岩内町で、放火、強盗などという事件が起こっています。学生が巻き込まれたという事件は起こっていませんが、いつ起こるかわかりません。外灯を設置していただくことができれば、多少は防ぐことができると思います。ですので、外灯設置をしていただくことは可能ですか。また、夜、暗い中、通学路の歩道が整備されていなくて転びやすく、夜でなくても転んでしまいそうなので、安全のため歩道の整備をしていただくことは可能ですか。

次に、岩内町のポイ捨て対策と、それに関わったごみ箱設置の希望についてです。

岩内町は、毎年4月の終わりごろにクリーンナップ運動を行っていますが、捨てるごみの量は減らず、クリーンナップをしたにもかかわらず、さらにはごみが増えているところもあります。

僕は、ポイ捨てされるごみを減らすためには、運動公園や十字街などの人がたくさん通るところに、ごみ箱を設置すればいいと思います。そうすれば、ポイ捨てすることなく設置してあるごみ箱にごみを捨てる人が増え、ポイ捨てされるごみが減り、岩内町がきれいになっていくと思います。

そして、もしすでにクリーンナップ運動以外でのポイ捨て対策を行っているならば、教えてください。

次に、岩内町の災害対策について質問をします。

ここ数年、自然災害が起こる数が増えてきていると思います。地震だけでも、阪神淡路大震災や東日本大震災、熊本地震などの大地震がありました。特に、東日本大震災は、マグニチュード9.0と非常に大きかったため、国内観測史上最大規模かつ過去100年間世界中で観測された地震の中で4番目の規模とされています。さらに、この地震は、津波を引き起こし、多大な被害を与えました。それに、自然災害は、豪雨や豪雪といったものも入ると聞きました。なので、僕は自然災害

は怖くてたいへんなものなのだと思います。そこで質問です。

岩内町は、自然災害に対してどんな対策をしているのですか。

次に、岩内町での再生可能エネルギーの取り組みについて質問をします。

近年、石油や石炭の化石燃料は自然に限りがあるだけではなく、その使用による地球温暖化や環境への影響が懸念されています。その証拠に、僕たちは社会の勉強の中で、度々、持続可能な社会という言葉聞きます。そして、その持続可能な社会の実現の鍵となるのが再生可能エネルギーだと教えられてきました。

本題に入りますが、岩内町での再生可能エネルギーの取り組みとして考えられている風力発電の実現はするのでしょうか。

そして、ほかにも考えられている地熱、温泉熱、小水力などの再生可能エネルギーの取り組みは、実現することが可能なのでしょうか。

以上で質問を終わります。

議長(永井) 町長。

町長(上岡) (登壇) 第一中学校、田中議員のご質問にお答えいたします。

1つめは、通学路の外灯設置と歩道の整備についてのご質問です。

通学路を含め、町内についている外灯には、道路照明灯と防犯街路灯の2種類があります。

道路照明灯は、交差点など、夜間の交通安全上、必要な箇所に設置しているもので、町内の外灯の多くをしめる防犯街路灯は、役場からの補助金を受けて、町内会や自治会が設置しているものがあります。

役場としては、通学路を含めて、町内の道路の明るさはおおむね、大丈夫であると思っておりますが、人口の減少などにより、家のあかりが少

なくなっていることや町内会がなく防犯街路灯がないところがあるのでないかと思しますので、学校をおしして教えていただければ教育委員会と相談し、検討したいと思します。

次に、歩道の整備についてであります。

道路には、国が管理する国道、北海道が管理する道道、町が管理する町道があり、このうち、町道には歩道が整備されていないところが多いため、これまで、国、道からの交付金を受けながら、歩道の整備を行ってきています。

現在は、道路の整備にあわせて旧中央小学校グラウンド下付近と、西小学校より西側での歩道の整備を進めております。

歩道を含めた町道の整備については、たいへん多くの要望箇所があり、なかなか進めていけない状況にあります。今後、交付金等を活用して、通学路の安全確保に努めていきたいと考えております。

2つめは、岩内町のポイ捨て対策、それに関わってのごみ箱設置の希望についてのご質問です。

みなさんにも参加いただいております春の全町クリーンナップ運動は、昭和54年に環境美化運動の一環として、全町民あげて、ごみのポイ捨て防止と運動を通じの郷土愛を高めることを目的にスタートし、今年で39回目を数え、町民約2,000人が参加しております。

この運動は1年を通じ、岩内クリーンナップクラブを中心に、町内会、自治会、各学校や団体などが空き缶拾いや川の清掃などを実施し、岩内町を訪れる多くの観光客などに対し、きれいなまち岩内のアピールと環境美化への意識向上に努めております。

その結果、ポイ捨てなどは減少傾向にあります。一部、心ないごみ捨ても見受けられることから、町としてもごみ捨て禁止看板の設置や防災行政無線による注意放送などを行っております。

次に、人通りの多い十字街や運動公園などの公

共施設へのごみ箱の設置については、ごみのポイ捨て防止するための1つの手段としては効果はありますが、分別されないごみ捨てや家庭ごみの持込、カラスなどによるごみの散乱などの課題もあります。

こうしたことから、ここ最近の観光地や公園、道の駅などでは、ごみ箱を撤去し、自分たちのごみは持ち帰り、リサイクルするなどの呼びかけを行う傾向にあります。

本町においても、ごみ箱を設置するのではなく、ひとりひとりが自分の出すごみは持ち帰り、家庭で分別するなどの環境保全とリサイクルへの関心と理解を深めてもらい、ポイ捨てのないきれいなまち岩内をみなさんと一緒に実現していきたいと思しますので、引き続きご協力をお願いします。

3つめは、過去に起こった災害から学んだ災害対策についてのご質問です。

最近の災害の特徴としては、局所的なゲリラ豪雨や、急速に発達し接近する大型台風などによる暴風雨の災害、いままで起こったことのない地域での大きな地震など、災害の規模は、大規模化、集中化しており、また、日本全国のあらゆるところで発生しております。

岩内町においても、過去には岩内大火を経験しており、また、7月5日には低気圧に伴う大雨による災害も発生したところです。

町としては、こうした災害への対策として、災害に対する準備が何よりも大事だと考えており、さまざまな災害に対する具体的な対応の方法について、岩内町地域防災計画として取りまとめております。

この計画に基づき、先日の大雨災害時においても避難所の開設や避難勧告を実施したところであり、避難所として開設した岩内町保健センターに避難住民49名を収容し、被害を受けた道路9箇所、河川8箇所については、早急な復旧を目指して対応を進めております。

また、災害に対する準備は役場だけではなく、住民の方、自らも実践する必要があると考えており、町としては、防災研修会の開催や防災訓練の実施などを通じて、自らの身の安全は自らが守るという意識を持ち、身の安全を守る行動がとれるよう努めております。

さらには、平成29年9月に最新の防災情報などを掲載した岩内町防災ハンドブックを作成して、全戸配布しており、この防災ハンドブックは、住民の方に普段から目にしていただき、いざというときの備えや、災害時にとるべき行動などについて、広く周知しているところであります。

このように、住民の方が安心してくらせる町づくりをめざし、災害に対する準備に引き続き取り組んでまいりますので、みなさんも日頃から、防災について関心を持ち、いざというときには、すばやく行動できるようご協力をお願いいたします。

4つめは、岩内町での再生可能エネルギーの取り組みについての2つのご質問です。

はじめに、岩内町での再生可能エネルギーの取り組みは実現するのかについてであります。

再生可能エネルギーは、日本国内で取り組みが進んでいるものとして、風力、太陽光、中小水力、地熱、バイオマスなどがありますが、この中で、岩内町内の一定規模での実績では、岩内高校や明和工業という民間の会社が大浜地区で行っている太陽光発電があります。

また、岩内町役場でも、駐車場の敷地で地中熱を利用して役場の中の温度調節ができるようにしており、再生可能エネルギーを活用しています。

こうした中、岩内町では、国や北海道と協力しながら、再生可能エネルギーの活用について積極的に検討をしており、特に風力に関しては、平成27年度に洋上風力発電ゾーニング整備実証事業を実施し、岩内町が風力発電に向いている地域であるとの結果が出ていることから、太陽光発電に続き、風力発電も町内で実施する事業者が出てく

るものと大いに期待しています。

次に、岩内町で行われようとしている風力発電の実現や、地熱、温泉熱、小水力などの実現は可能なのですかについてであります。

風力発電の実現では、岩内町が平成27年度に実施した洋上風力発電ゾーニング整備実証事業のほかに、民間事業者が岩内町内で風の調査を行っており、その結果では風力発電に適しており、風力発電事業を事業化できる見込みがあることから、現在、敷島内地区に大型の風力発電事業の建設計画を立ち上げ、風力発電に必要な風が得られる場所の調査や自然環境に与える影響がどの程度なのかなど、国から決められている必要な調査を行っていますが、これらの手続きが順調に進めば、風力発電が実現すると考えています。

また、地熱、温泉熱、小水力などの実現についても、昨年、円山リゾートエリア再生可能エネルギーの調査を行い、地熱につきましては、地質の調査や機械を使った地層の探査などにより、当該エリアの地下1,500メートル付近に有望な地下資源が認められ、地熱・温泉資源の存在が期待される結果でありました。

このため、地熱につきましては、平成30年度の国の補助制度を利用して継続調査を行い、その可能性を探りたいと思います。

また、温泉熱と小水力につきましては、調査結果から現在の状況では有効な事業とはならず、もっと詳しいデータの収集や今後の技術的な進歩があれば有効な事業になる可能性があるとのことであります。

こうしたことから、岩内町での再生可能エネルギーによる発電事業がより進むようにするため、引き続き、いろんな取り組みに努力していきます。

以上です。

議長(永井) これにて田中夏威斗議員の質問を終わります。

次に、川筋緋花議員。

4 川筋 緋花

- 1 岩内町の人口問題について
- 2 岩内町の町づくりについて
- 3 岩内町の学校について



川筋議員（登壇） 岩内第二中学校の3年、川筋緋花が質問します。

はじめに、岩内町の人口問題について質問します。

1つめ、岩内町は高齢者が多いと聞きますが、総人口のうち何割が高齢者なのですか。

後志管内は、人口が減少していると聞いています。岩内町では、人口増加の工夫を何かしていますか。岩内町の人口が年々減少しているから、工夫していたりするのかが気になりました。

次に、岩内町の町づくりについて質問します。

1つめ、岩内町が、ほかの町に負けていないと思えるところは何ですか。岩内町が誇れる物事を知りたいからです。

2つめ、町民が使える施設が増えると便利になってうれしいです。スキー場以外に大きな施設を建設する予定がありますか。町民が使える施設が少ないからです。

3つめ、お祭りでもっとイベントを大きくやって、町民みんながもっと楽しめるようになってほしいです。岩内町では、何か新しい行事を行うことを考えていますか。お祭りの規模が、小さくなってきているからです。

次に、岩内町の学校について質問をします。

岩内町の学校は、義務教育学校になると聞いています。義務教育学校になるのはいつですか。

また、義務教育学校になったときの校舎はどうなりますか。

将来、自分たちの子どもが子どものときに、どうなっているか興味があるからです。

一中と東小や、二中や西小が建っている場所に少し距離があり、学校は一緒になるのか、別になるのかが知りたいからです。

以上で質問を終わります。

議長(永井) 町長。

町長(上岡)（登壇） 第二中学校、川筋議員のご質問にお答えいたします。

ご質問のうち、3つめの岩内町の学校についてのご質問は、教育委員会からお答えいたします。

1つめは、岩内町の人口問題についての2つのご質問で、はじめに、岩内町の総人口のうち何割が高齢者なのかについてであります。

国が平成27年に取りまとめた国勢調査によりますと、岩内町の総人口が13,042人に対して、65才以上の高齢者は、4,408人で33.9%、75才以上の高齢者は、2,266人で1

7. 4%という結果になっています。

次に、後志管内は人口が減少しているが、岩内町では人口増加の工夫を何かしているかについてであります。

岩内町では、平成28年3月に人口減少を食い止め、町を活性化させるための岩内町総合戦略という計画を作りました。

この計画では、1、安定した雇用の創出、2、新しい人の流れをつくる、3、子育て支援の充実、4、安全・安心な暮らしを守るという4つの目標を立て、毎年、町が行うさまざまな仕事の中で、取り組みをしています。

平成30年度の具体的な取り組みの一例としては、移住を促進する対策として、住宅家賃や引っ越し費用の助成、新築住宅・中古住宅の取得の助成や観光客が岩内周辺へ来やすくなるよう、独自の歴史文化や暮らしを体験することで、地域の魅力を感じてもらうための仲間づくりなどあります。

2つめは、岩内町の町づくりについての3つのご質問です。

はじめに、岩内町が他の町に負けていないと思えるところは何かについてであります。

岩内町が他の町に負けていないところは、たくさんありますが、特に素晴らしいと思えるのは山があり、海があり、川がある、この豊かでめぐまれた自然です。

さらに、岩内町は古くから栄えた町なので、帰厚院の大仏像など歴史的・文化的にみて貴重なものがあります。

また、港がある岩内町は水産業が大切な産業のひとつですが、魚などの加工をして、美味しくする技術が素晴らしいと多くの人たちにほめられています。

次に、町民が使える施設が増えると便利になってうれしい、スキー場以外に大きな施設を建設する予定があるのかについてであります。

岩内町が、いま持っている公園などの施設については、たくさんのお金がかかるため、計画を立てて順序よく再整備するようしています。

また、それ以外では、新しく建てたりする予定はありませんが、これからみなさんからの要望や意見などがたいへん多くなり、必要な施設となれば、整備するように計画することもできます。

こうした中で、岩内町以外の動きでは、現在、円山でスキー場をやっているイワナイリゾートが、冬以外の季節でもお客さんを呼べないか、いろいろなことを考えています。

具体的には、山で遊ぶ、川で遊ぶ、海で遊ぶなど豊かな自然を活かしたアイデアがあるので町としても応援していこうと考えています。

こうした岩内町以外の動きが、さまざまな反響を呼び、新たな事業者が岩内町にくるといった波及効果も考えられますので、そうした人たちをしっかりとサポートしていきたいと思えます。

次に、お祭りでもっとイベントを大きくやって町民みんながもっと楽しめるようになってほしい、岩内町では、何か新しい行事を行うことを考えているのかについてであります。

お祭りは、いまやっているものの良い点、悪い点をよく話し合い、次のお祭りに活かして町民のみなさんがもっと楽しめるように磨いていきたいと思っています。

こうした、反省の中で、イベントの内容の見直しや新たな企画も含めた話し場を続けていくことが伝統となり、重みや価値につながるものと考えています。

いずれにしましても、町づくりは役場だけで行うものではなく、住んでよかったと思える町になるよう、みなさんからの思いを受け止め、しっかりと取り組んでいきたいと思えますので、ご協力をお願いします。

以上です。

議長(永井) 教育長。

教育長(吉田) (登壇) 3つめは、岩内町の学校について、2つのご質問です。

はじめに、義務教育学校になるのはいつですかについてです。

義務教育学校とは、いま、みなさんが学んでいる小学校1年生から6年生、中学校1年生から3年生までの教育を小学校、中学校の区切りをなくして学ぶ学校を義務教育学校といいます。

岩内町では、今年6月に、町内の小中学校の学力を高めるためや、勉強や学校生活を送りやすい環境を整えることができるように、どうすることが良いのかを考える、検討委員会が設立され、この検討委員会の中で、義務教育学校にすべきか現状のままで良いのかを話し合っています。

検討委員会で、今年度中には義務教育学校が、岩内町に必要なか、必要でないか、さらに、いつまでに義務教育学校を造るのかなどが決定いたします。

次に、義務教育学校になったときの校舎はどうなりますかについてです。

校舎につきましても、先ほどお話ししました検討委員会において、今年度中には、どのような学校にするかや岩内町に義務教育学校が必要かが決定することから、必要であるとなったときは、教育委員会としては、現在の小学校と中学校を1つにし、小学校1年生から中学校3年生までの9年間をとおして学習ができる学校を造ることを目指していきます。

いずれにしても、岩内町の学校で学び、その学校を卒業した子どもたちが、この学校で学べてよかったと思えるような学校、そして、みなさんが誇れるような学校を造るように進めてまいります。

以上です。

議長(永井) これにて川筋緋花議員の質問を終わります。

以上をもって、代表質問を終結いたします。

以上をもちまして、本子ども議会に付議されました案件は、すべて議了いたしました。

おはかりいたします。

本子ども議会は、これをもって閉会いたしたいと思えます。

これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(永井) ご異議なしと認め、そのように決しました。

本日の会議を閉じます。

これをもって、平成30年第1回岩内町子ども議会を閉会いたします。

閉会 午前11時30分

これは、書記 綿谷 麻紀子が記載したものであるが、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

岩内町子ども議会議長

永 井 明

岩内町子ども議会議員

金 谷 彪 尊

岩内町子ども議会議員

近 藤 麗 来



子ども議員



子ども議員・教育委員会委員・町議会議員



子ども議員・各小中学校長・町議会議員・町職員

平成30年第1回 岩内町子ども議会会議録

平成30年8月発行

編集／発行 岩内町議会事務局